

注3. <手賀沼における繁茂の推移と対策>

- ❖ 1998年、手賀沼源流のひとつ亀成川流域の水田水路で初確認。隣接する印旛沼から引かれている農業灌漑用水にナガエツルノゲイトウの断片が混入して拡散されたと推測されている。
- ❖ 2002年、亀成川の河川に侵入。
- ❖ 2007年、手賀沼全域で確認。
- ❖ 2010年、水田畔、灌漑水路などでは全流域で繁茂していたが、沼本体の岸辺の群落は局所的で、群落規模も小さかった。
- ❖ 2012年、確認地点が大幅に増加。特に顕著だったのは大津川河口～大堀川河口の南岸部。マット状の浮島状態になり、長径20メートルを超える群落もあった。
- ❖ 2012年、特定外来生物を防除する認定を受けている千葉県柏土木事務所が、ナガエツルノゲイトウの駆除を手賀沼第二機場近くの水面で行った。
- ❖ 2013年、手賀沼公園のボートハウスにナガエツルノゲイトウの群落流れ着き、ボートが係留できなくなるという被害が発生。美手連では「手賀沼流域フォーラム」事業として、ナガエツルノゲイトウ遮光実験を同ボートハウス脇で実施。大阪府立環境農林水産総合研究所水生生物センターが行った遮光シートによる駆除実験が成功したとの情報を得て、同様に行ってみたもの。
- ❖ 2013年～2016年、遮光実験。一定の効果を挙げてきたが、ナガエツルノゲイトウがすでに手賀沼全域に広がっている現状を鑑み、2016年度で事業を終了することにした(2017年2月千葉県生物学会で発表を予定)。
- ❖ 2014年、地点数、群落規模ともに2012年を大きく凌駕するようになった。群落は多数で規模の小さいものも多いが、北千葉導水代2機場前などでは大群落に生長し、横幅50メートル以上、奥行き10メートルにも達していた。さらに、北岸の根戸新田地区にも繁茂域が拡大した。
- ❖ 2015年、小さめの群落が連続する形態が大津川、大堀川、根戸新田などで見られるようになった。
- ❖ 2015年7月、美手連と柏土木事務所がナガエツルノゲイトウ対策について話し合いを持った。
- ❖ 2015年10月、美手連が手賀沼土地改良区と話し合い、同改良区の協力を得て農地におけるナガエツルノゲイトウの実態調査を行った。
- ❖ 2016年、群落が連続し、岸全体を覆うようになった。
- ❖ 2016年10月28日、千葉県柏土木事務所、柏市、柏市建設業会のご協力により、11月25日の「手賀沼における特定外来生物ナガエツルノゲイトウ駆除作戦」のための試験的駆除を実施(北柏ふるさと公園)。
- ❖ 2016年11月25日、柏市柏市建設業会と美手連との共催、千葉県柏土木事務所および柏市の後援により、「手賀沼における特定外来生物ナガエツルノゲイトウ駆除作戦」(北柏ふるさと公園)を実施予定。

参照資料/いずれも「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」ホームページに掲載

(<http://www.biteren.com/philoxeroides.htm>)

「講演『手賀沼におけるナガエツルノゲイトウ繁茂域の拡大について』報告」

「手賀沼 ナガエツルノゲイトウ流入経路」

「遮光シート設置とその後の経過」

「大堀川実態調査結果」

「大津川実態調査結果」